

西条自民

クラブ

一色 輝 雄 議員



(代表質問)

- 1 学校規模等適正化について
- 2 地下水保全について
- 3 市長と職員の意思疎通について

学校規模等適正化に対する 教育委員会の

今後の対応は？

問

西条市学校適正規模・適正配置等審議会から教育長に、本年1月に提出された答申書の内容はどのようなものだったのか。

また、学校規模等適正化について、教育委員会としては、今後、どのように対応しているのか。

答

答申では、学校が一定規模にあることが必要で、小学校においては複式学級、中学校においては単学級を解消することを最優先とし、クラス替えが可能な規模を確保していくこととしている。

また、小規模特認校制度や小・中一貫教育といった、さまざまな子どもたちの特性に応じた学校作りに配慮がされており、よりよい教育環境を目指した内容となっている。

更に、附帯意見として、スクールバスの活用、学校跡地の有効活用、地元協議会の設置などが示されており、再編に当たっては、地域の皆様とのじゅうぶんな合意形成を図りながら進める必要がある。

今後の進め方としては、まずは、市長と教育委員会の意思統一を図り、答申を基に基本計画案を作成し、パブリックコメントなどを経て、計画の策定作業に進みたい。

学校規模等適正化に対する

市長の考えは？

問1

市長は1月22日の総合教育会議で「再編

を進める目標期間の延長や計画案自体を再検討することもありえる」「教育の在り方を検討する新たな審議会を立ち上げる」と発言しているが、どのような真意があるのか。

答1

「再編を進める目標期間の延長や計画案自体を再検討することもありえる」との発言については、スケジュールありきで結論を急ぐことなく、また、小規模校の存続も含め、あらゆる選択肢を排除することなく、丁寧に検討を進めていただきたいということである。

また、「教育の在り方を検討する新たな審議会を立ち上げる」との発言については、審議会の答申の中に「保護者をはじめ地域の理解が得られるよう話し合いの場としての地元協議会を設置するなど、じゅうぶんな協議を経てから進めていただきたい」とあり、私の思いも同様である。

問2

今後、どのような方向性が示されるとしても、市長と教育委員会の連携・協力は、非常に重要であ

る。市長は、学校規模等適正化についてどのように考えているのか。

答2

子どもの心の問題や登校拒否、教員の過重労働によるストレスの増大や部活動の在り方など、教育に関する課題が山積する中、小・中学校の規模適正化が、喫緊の課題であることに異論はない。このような中、審議会から出された答申を基に、教育委員会において策定予定の計画案に基づき、検討が進められるが「全ては子どものために」という理念を念頭に、結論を急ぐことなく、多くの皆様の声を聞きながら、丁寧に検討を進めたい。

かけがえのない地下水を

守るために！

問

本市の財産である地下水を守るため、西条市地下水の保全及び管理並びに適正な利用に関する条例を令和5年4月1日に施行して以降、どのような取組をしてきたのか。また、今後はどのように取り組んでいくのか。

答

条例施行後の地下水保全に向けた取組としては、水質、水量のモニタリングとして、市内23か所での地下水水位の観測や、市内一般家庭70か所での水質調査に加え、将来的な環境変化などへの対応を見据えた調査研究を大学に委託して実施している。

また、西条市地下水保全協議会を設立し、地下水の将来ビジョンや必要な施策などについて協議を進め、多くの水を利用する農業者との情報交換や小学校などへの出前講座などを通じ、育水の普及・啓発に努めている。

今後は、西条市地下水保全協議会で地下水の涵養面と利用面の両面からの対策の実施に向け、協議を行っていく。

また、市民などが地下水の現状や地域公水、育水の理念などについて理解を深め、節水などの行動変容につながるよう、普及・啓発活動の充実を図るなど地域が一体となった地下水保全に取り組みたい。

